

天王垣外・榎垣外・地獄沢遺跡 発掘調査報告書 (概 報)

平成10年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書



長野県岡谷市教育委員会

序

岡谷市は鉢伏山、高ボッチを背景に横河川、塚間川が扇状地を形成しながら諏訪湖に注ぎます。諏訪湖西側は湖辺まで山塊が迫り、諏訪湖の出口である釜口水門から天竜川が流れ出ています。このような自然環境の岡谷市には190箇所を越える遺跡があり、縄文時代をはじめ、弥生、古墳、奈良、平安時代など各時代にわたって多くの遺跡が存在することが知られております。

こうした歴史的な環境にあって、個人住宅や店舗建設などによる遺跡内での土木工事においては、文化財保護法に基づく届出が多数出され、開発に伴う埋蔵文化財の調査は、毎年、多くの調査件数にのぼります。これら貴重な成果は記録にとどめ、また出土品の保存に努めてまいりました。

さて、本年度の調査件数は20件を越え、多くの成果を得ることができました。ここに、平成10年度に実施した個人住宅等小規模開発に伴う試掘・確認発掘調査の概要をまとめ、「平成10年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書(概報)」を刊行しました。埋蔵文化財の保護は土地所有者、事業者等の皆様のご理解とご協力により行われています。発掘調査で得られた成果を公開・活用することにより、これまで以上のご理解とご協力が得られるものと考え、今後この報告書が多くのみなさまに活用されることを願っております。

最後になりましたが、今年度の調査にあたり、深いご理解とご協力をいただきました土地所有者と事業者の皆様に感謝申し上げます。また、発掘調査に携わっていただいた皆さんには炎暑、厳寒の中をご苦労いただきお礼申し上げます。

平成11年3月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和男

例 言

1. 本報告書は、平成10年度榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡試掘・確認発掘調査の報告書（概報）である。
2. 事業は国の平成10年度国宝重要文化財等保存整備費補助金及び、県の平成10年度文化財保護事業補助金を受けた岡谷市教育委員会が実施した。
3. 調査は、国および県から補助金交付を受けた岡谷市教育委員会が、平成10年4月27日から平成11年3月19日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月に行ったが十分な整理が終了していないため、概要の掲載にとどめてある。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
5. 本報告書中の原稿執筆は、天王垣外遺跡を小坂英文、榎垣外遺跡・鎮守東地籍・金山東地籍、地獄沢遺跡を笠原香里が行い、全体の編集・作図は事務局で行った。

目 次

序

例 言 目 次

1. 平成10年度試掘・確認発掘調査の概要	1
2. 天王垣外遺跡	3
3. 榎垣外遺跡・鎮守東地籍	5
4. 榎垣外遺跡・金山東地籍	8
5. 地獄沢遺跡	10

1. 平成10年度試掘・確認発掘調査の概要

本年度、岡谷市内の周知の遺跡において、農地転用、公共事業などの開発行為が計画・実施され、市教育委員会が何らかの対応を行った件数は30件を越えた。このうち試掘・確認発掘調査は24件、13遺跡に及んだ。これらについて以下に概要を記しておく。

天王垣外遺跡は、明治40年、中央通り開削工事において、勾玉66点をはじめ362点の石製装飾品を出土した弥生時代の遺跡として知られている。また、戦前に全国的な視野で、長野県の弥生時代文化の研究が注目される契機となった遺跡の一つでもある。しかし遺跡のほとんどが市街地の中心となっているため、遺跡の全貌を知るすべもなく今日に至っている。今回の成果としては、これまで発見されている遺構が住居跡であったのに対し、廃棄場（土器捨て場）を発見できたことが注意されよう。弥生時代の集落の在り方、構成を考えるうえで住居跡以外の生活の痕跡を知ることができたのは大きな成果となった。

榎垣外遺跡は、これまでに長大な掘立柱建物跡の発見や、刀子、円面硯、墨書土器、緑釉陶器などが出土しているため、官衙跡ではないかと推定されている遺跡である。今回調査した鎮守東地籍、金山東地籍はこれに隣接する位置にあり、これまでの調査でも住居跡などの遺構が多く発見されていた。今回は平安時代住居跡4棟の発見や溝状の落ち込みの発見があり、集落がいかに濃密に存在していたかということを示す資料の充実がはかれた。

地獄沢遺跡はこれまでも調査が行われ、縄文時代中期初頭の住居跡と小竪穴群の存在が確認されている。今回の調査地は遺跡の南端にあったため、新たな該期住居跡、小竪穴の発見によって、集落が扇状地のどこまで広がるのか、集落の限界を知ることができた。

	調査期間	遺跡名	所在地	調査の原因	主な遺構	遺構・遺物の時代
1	4.27～4.30	榎垣外(宮下)	長地字宮下1721-1	共同住宅建設		平安
2	5.1	榎垣外(金山)	長地字金山2934-1	駐車場敷地		平安
3	5.1～5.6	榎垣外(山道端)	長地字山道端2318-11	住宅建設		平安
4	5.6～5.25	天王垣外	中央町2丁目5440-4	駐車場敷地		弥生
5	5.6～5.25	天王垣外	中央町2丁目5440-3外	駐車場兼資材置場敷地		弥生
6	5.22～5.25	外畝	山下町1丁目15-3	住宅建設		
7	6.4～6.9	梨久保	長地中村4583-1	駐車場敷地		縄文
8	6.15～8.21	榎垣外(鎮守東)	長地2973-2	駐車場敷地	平住4	縄文・平安
9	6.29	西垣外	川岸中3丁目3254	共同住宅建設		
10	7.3～7.9	西除入	川岸上4丁目1243-1外	共同住宅建設		
11	8.19～8.27	榎垣外(町頭北)	長地字町頭北2759-1	住宅建設		平安
12	9.21	長久保	長地5898-1	上水道		
13	9.21	外畝	山下町1丁目2687-5	工場建設		
14	9.22～10.19	榎垣外(金山東)	長地2860-1	住宅建設		平安
15	10.8	若宮	湊字若宮4426-1	貸作業所・貸倉庫敷地		
16	10.19～12.1	地獄沢	字上ノ原263-1外	宅地造成	縄住1	縄文
17	11.18～11.19	宗平寺	加茂町4丁目9	原菅住宅建替		
18	11.25～12.1	上屋敷	長地字上屋敷5216外	住宅建設		縄文
19	11.30～12.3	榎垣外(向田通)	長地向田通4744-1	住宅建設		平安
20	12.11～1.13	梨久保	長地字清水田4452-ロ外	墓地造成		縄文・平安
21	1.13～1.19	上向	長地字大橋向6191-1	住宅建設		縄文
22	1.18～1.20	上向	字上ノ原69-18	住宅建設		縄文
23	2.9	海戸	天竜町3丁目5318-7	住宅建設		縄文
24	2.18～3.3	海戸	天竜町3丁目5317-5外	郵便局建設		縄文

第1表 平成10年度試掘・確認発掘調査一覧表



第1図 試掘・確認発掘調査地点 (番号は第1表の一覧表に同じ)

2. 天王垣外遺跡

発掘調査の場所 岡谷市中央町2丁目5440-3 外

発掘調査の期間 平成10年5月6日～5月25日

調査の原因 駐車場兼資材置場敷地

調査面積 70㎡

発見された遺構 弥生時代 土器捨て場

発見された遺物 弥生時代 壺2点 甕1点

土器片・石片1箱

天王垣外遺跡は明治40年、中央通りの開削工事において勾玉66点、管玉286点、小玉10点、計362点の石製装飾品を出土した弥生時代の遺跡として知られている。また近年の調査でも平成7年度にはガラス製ビーズ玉4点、管玉1点が住居跡より出土している。

今回の調査地は天王垣外遺跡の南東の端にあり、遺跡の中心地と思われる天王森から離れた所に位置する。

調査地では、トレンチを設定し掘り進めを行うと、ひとつのトレンチより地表下約80cmほど掘り下げた黒色土層から、弥生式土器甕破片が多く出土した。他のトレンチにはほとんど出土遺物がないため、一



第2図 遺物出土状態



第3図 遺物出土状態



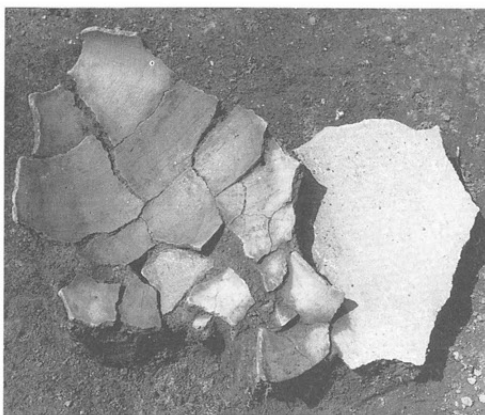
第4図 遺物出土状態



第5図 弥生式壺形土器

定の範囲内に集中しているものと考えられ、土器集中出土トレンチの拡張を行った。遺物は黒色土層中から出土しているため、掘り込みを持つ遺構があるのか精査したが、確認することはできなかった。小型の壺は、破片が重なりあって出土し、口縁部の破片が若干足りないが、ほぼ完形品に復原できた。大型の壺は、横位でつぶれた状態で出土し、頸部の破片が一部足りないが、こちらもほぼ完形品に復原できた。土器片の出土状態は一定の範囲に破片が集中出土しており、一定面より下層には深く埋没してはいないことから、一時的で小規模な廃棄場であると考えられた。遺物を取り上げた後、住居跡ではないことを確認するため掘り下げを行ったが、石の周辺に若干の焼土はあったものの、炉址や柱穴、床面などは発見されなかった。

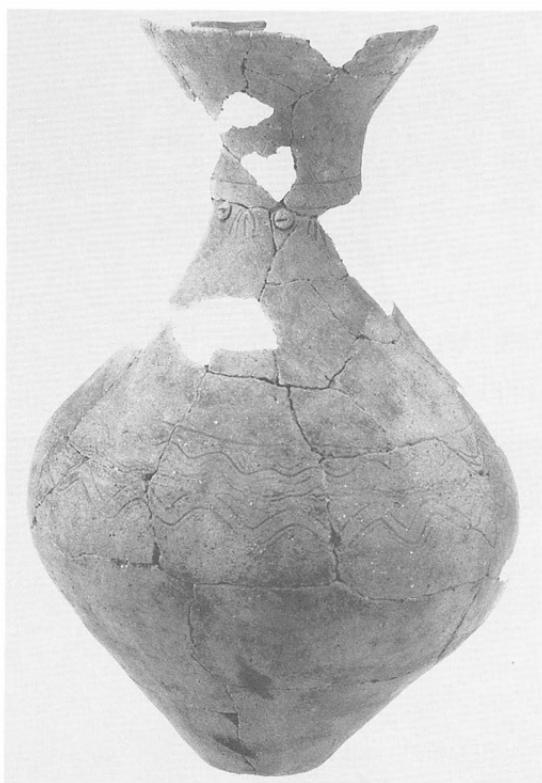
今回の調査では住居跡は発掘できなかったが、小規模ながら土器捨て場を発見することができた。本遺跡は既に市街地となっており、集落全体の構造を知ることが難しい状況である。しかし居住する遺構ではなく廃棄場としての性格をもつ遺構の発見により、わずかではあるが集落全体の構成を考えるうえで貴重な遺構の発見となったと考えている。



第6図 遺物出土状態



第8図 遺物出土状態



第7図 弥生式壺形土器

3. 榎垣外遺跡・鎮守東地籍

発掘調査の場所	岡谷市長地2973-2
発掘調査の期間	平成10年6月15日～8月21日
調査の原因	駐車場敷地
調査面積	62m ²
発見された遺構	平安時代住居跡4棟
発見された遺物	須恵器坏4 内面黒色土師器坏9 (内墨書土器1) 須恵器蓋1 墨書土器3片 土器片・石片4箱



第9図 3号住居跡遺物出土状態

鎮守東地籍は榎垣外遺跡のほぼ中央に位置する。今回の調査では、平安時代の住居跡4棟を確認することができた。

第2号住居跡 住居跡西側の壁の一部が確認された。遺構検出面から床まで約30cmの掘り込みがあり、土師器坏、須恵器甕片、鉄製品等が出土した。

第3号住居跡 カマドを含む住居の北東隅の周辺が確認された。覆土中には径10～20cm大の礫が多量に混入しており、それらを取り除くと土師器坏、土師器甕片等が出土した。カマドは住居の北壁にあり、外側に40cmほど張り出している。支柱石のみ残っている状態で、火床面はやや焼けている程度であった。

第4号住居跡 北西隅の壁が確認された。掘り込みは遺構検出面から20cmほどで、壁面中に深さ4～8cmの小穴が数箇所確認された。

第5号住居跡 北壁の一部が確認された。掘り込みは検出面から20cmほどで、土師器坏片、刀子等遺物が多く出土した。床面は強く叩き締めてあった。

3号住居跡、5号住居跡からは墨書土器片が出土している。



第10図 須恵器小型瓶



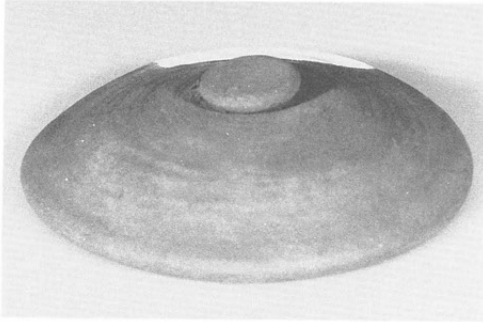
第11図 3号住居跡遺物出土状態



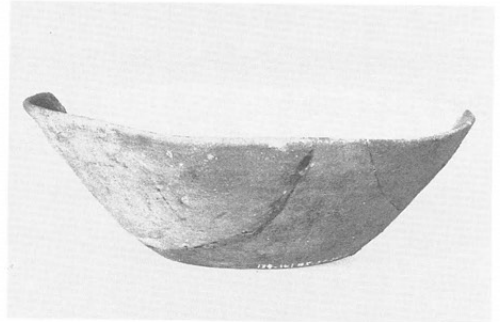
第12図 2号住居跡出土須恵器坏



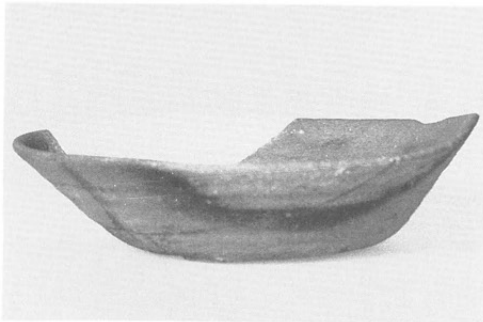
第13図 2号住居跡出土土師器坏



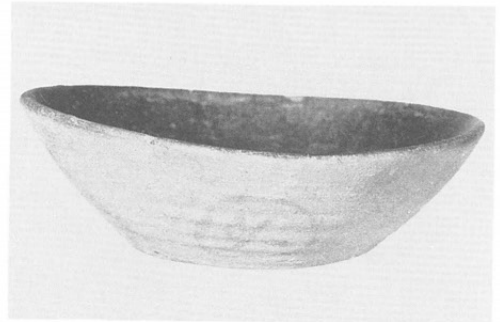
第14図 2号住居跡出土須恵器盖



第15図 3号住居跡出土須恵器坏



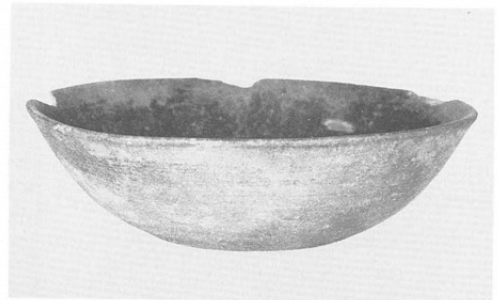
第16図 3号住居跡出土須恵器坏



第17図 3号住居跡出土墨書土器



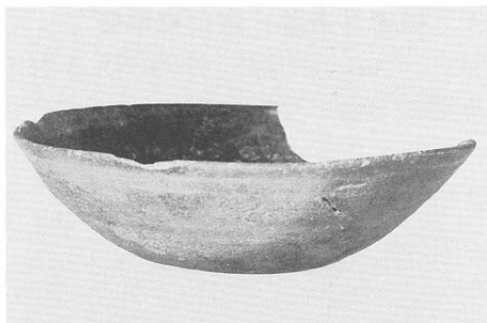
第18図 3号住居跡出土土師器坏



第19図 3号住居跡出土土師器坏



第20図 3号住居跡出土土師器坏



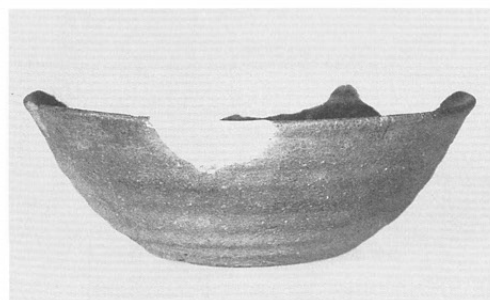
第21図 3号住居跡出土土師器坏



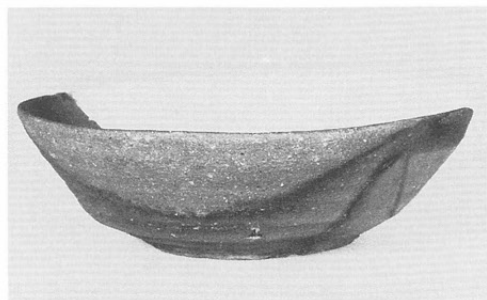
第22図 3号住居跡出土土師器坏



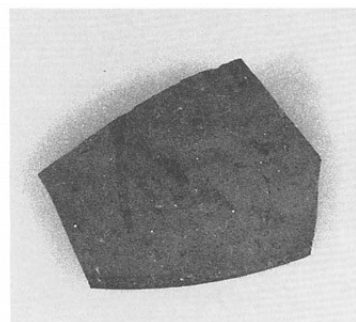
第23図 4号住居跡出土土師器坏



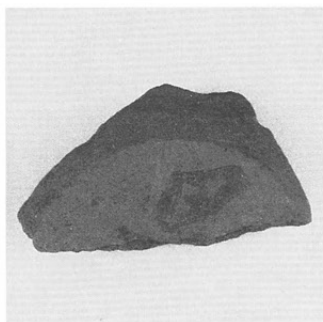
第24図 4号住居跡出土土師器坏



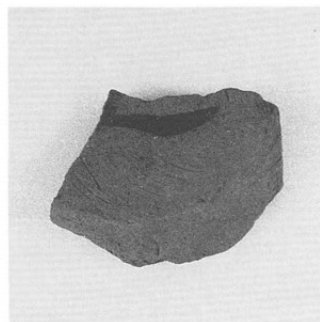
第25図 5号住居跡出土須恵器坏



第26図 3号住居跡出土墨書土器片



第27図 3号住居跡出土墨書土器片



第28図 5号住居跡出土墨書土器片

4. 榎垣外遺跡・金山東地籍

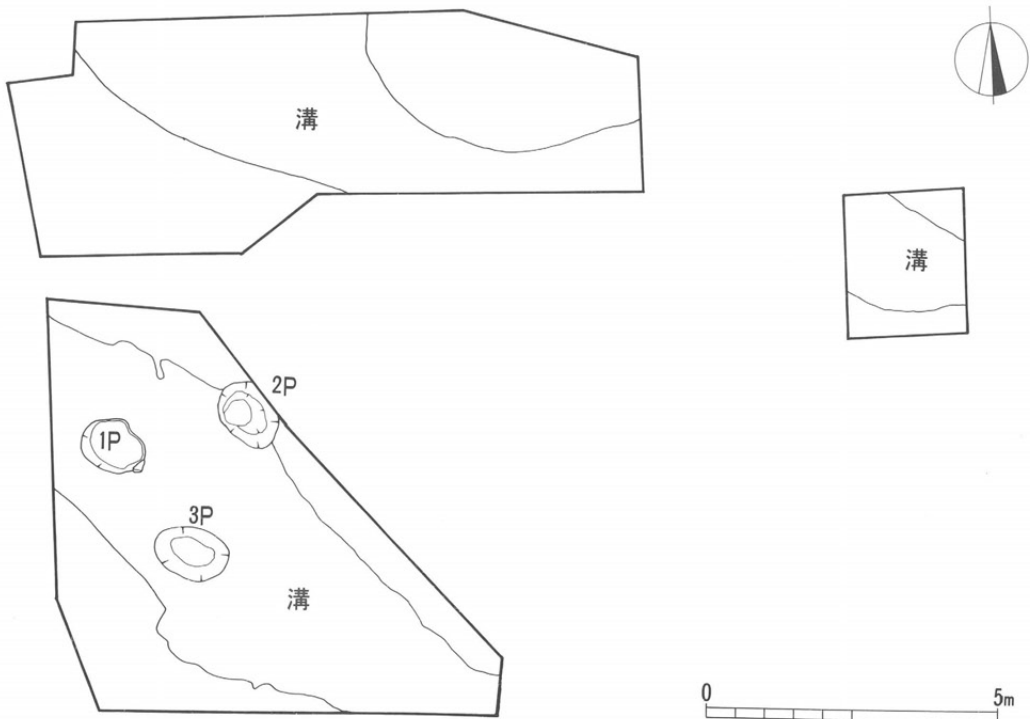
発掘調査の場所 岡谷市長地2860-1
発掘調査の期間 平成10年9月22日～10月19日
調査の原因 住宅建設
調査面積 69.8m²
発見された遺構 平安時代 小竪穴3基
発見された遺物 土師器坏2点 須恵器甕1点
紡錘車1点 鉄製品1点 土器片・石片3箱



第29図 溝セクション

榎垣外遺跡はこれまで多くの調査が行われ、掘立柱建物跡など官衙跡(諏訪郡衙跡)と見られる遺構が数多く出土しており、奈良・平安時代の大きな集落であることが確認されている。金山東地籍は榎垣外遺跡の中心に位置し、これまでも過去の周辺調査では、奈良時代末期の住居跡や墨書土器、円面硯、隆平永宝が出土し、官衙跡を中心として栄えていた街の跡が発見されている。

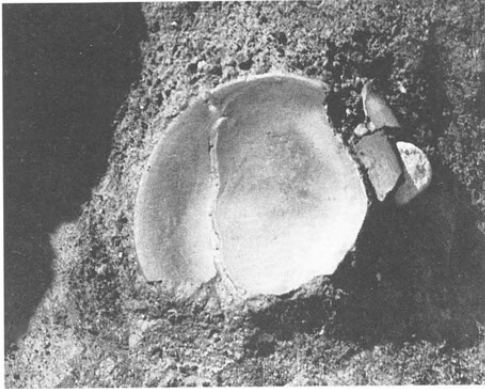
今回の調査では、3箇所にてトレンチを設定し調査を進めた。トレンチからは遺物が多く出土し、溝状に落ち込む箇所があることがわかった。覆土は砂礫層と黒色土が交互に堆積しており、遺物は砂礫層の中から多く出土した。また、鉄製紡錘車が1点出土し、当時この周囲で糸を紡ぐ作業が行われていたことが窺われる。小竪穴は溝状の落ち込みの下から3基発見され、このうち1基



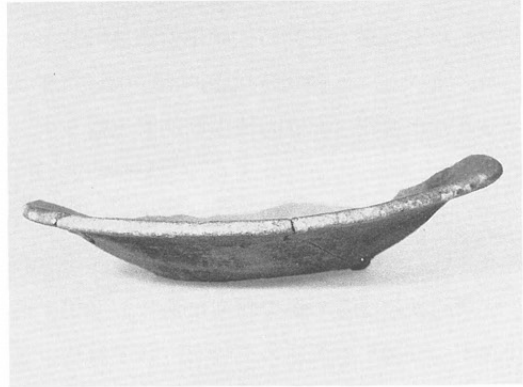
第30図 遺構配置図 (1:130)

からは土師器杯が1点出土した。

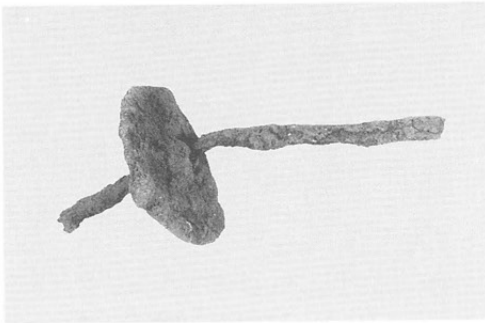
同遺跡内の調査においては、奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡が確認されており、今回遺物を伴う溝状の落ち込みが発見されたことにより、当時の集落を考察するうえで貴重な成果を得ることができた。



第31図 遺物出土状態



第32図 1P出土土師器杯



第33図 紡錘車



第34図 土師器杯



第35図 須恵器底部

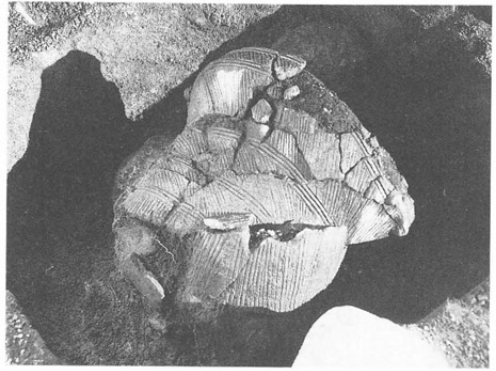
5. 地獄沢遺跡

発掘調査の場所	岡谷市字上ノ原263番-1外
発掘調査の期間	平成10年10月19日～12月1日
調査の原因	宅地造成
調査面積	154m ²
発見された遺構	縄文時代中期初頭住居跡1 縄文時代中期初頭小竪穴2
発見された遺物	縄文時代中期初頭土器5点 土器片・石片3箱

今回の調査地は遺跡の南端に位置し、塩嶺の南唐沢水源地から横河川に向かって広がる扇状地の中ほど、南向きのゆるやかな斜面にある。平成8年度には北側に隣接する個所の調査を行っており、その結果から遺構は、遺跡の南側に寄るほど希薄になることから、今回の調査地では、北側に遺構が集中すると予想されていた。調査では、はたして調査地南側からは遺構は確認されず、遺物もごく少量もしくはまったく出土しない状態であった。

今回遺構が発見されたのは調査地の北側で、以前の調査で小竪穴が発見されたグリッドに接する。小竪穴は2基発見され、723P（長径1m、短径90cm、深さ40cm）から復原可能な縄文時代中期初頭の深鉢形土器が横位で出土した。底部は欠損している。文様は半裁竹管状工具を使用した平行沈線文が施される。

また、遺物が集中して出土するトレンチの調査を進めていくと、縄文時代中期初頭の住居跡が発見された。この第12号住居跡の覆土は拳から小児頭大の礫と土器片を多量に含む暗褐色土で、これを取り除くと黄褐色土層を掘り込んだ堅い床面が検出された。竪穴の中央部から炉が確認されたが、土器の埋設はなく、焼土が若干ある程度である。



第36図 723P 遺物出土状態



第37図 723P 出土深鉢形土器



第38図 12号住居跡遺物出土状態

報 告 書 抄 録

ふりがな	てんのうがいと・えのきがいと・じごくざわ							
書名	天王垣外・榎垣外・地獄沢遺跡発掘調査報告書（概報）							
副書名	平成10年度 榎垣外遺跡ほか岡谷市内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	長野県岡谷市教育委員会							
編集機関	長野県岡谷市教育委員会							
所在地	〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL 0266-23-4811							
発行年月日	西暦 1999年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
てんのうがいと 天王垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 ちゅうおうちよう 中央町	20204	81	36度 3分 29秒	138度 3分 10秒	19980506 ～ 19980521	70.0	駐車場敷地 資材置場
えのきがいと 榎垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	134	36度 4分 32秒	138度 4分 4秒	19980615 ～ 19980806	62.0	駐車場建設
えのきがいと 榎垣外	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 おさち 長地	20204	134	36度 4分 37秒	138度 4分 5秒	19980922 ～ 19981019	69.8	住宅建設
じごくざわ 地獄沢	ながのけんおかやし 長野県岡谷市 あどうえのほら 字上ノ原	20204	110	36度 5分 14秒	138度 2分 57秒	19981019 ～ 19981202	154.0	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
天王垣外	集落	弥生	土器捨て場		弥生時代壺2 弥生時代甕1			
榎垣外	集落	平安	平安時代住居跡4		土師器坏9 須恵器坏4			
榎垣外	集落	平安	平安時代小竪穴3		土師器坏2 土鍾2 紡錘車1			
地獄沢	集落	縄文	縄文時代住居跡1 縄文時代小竪穴2		縄文時代中期初頭土器1			

